茨城県立大洗高等学校 ｜ 校長室だより 27 号【やさしい日本語版】

自分を表現するということ



令和８年 11 月２日（月）発行 文責：新堀 隆久

今週、伝えたいこと

「わからない」を、急いで片づけなくていい。自分を表現する方法は、きっとこれから見えてくる。

今週、考えてみてください。 あなたは今、何で自分を表現していますか。

みなさんこんにちは。今週末は文化祭です。大切な行事や本番が続く人もいますね。

先日、水戸第三高校の 100 周年の記念講演会で、東京藝術大学の学長の日比野克彦さんの話を聞きました。みなさんにも伝えたいことがあるので、少しだけ紹介します。

日比野さんは、こんな話をしていました。みんなで同じリンゴを見て、絵を描きます。できあがった絵は、１人として同じになりません。年齢も、育った場所も、好きなものもちがう人が同じリンゴを描けば、ちがう絵になるのは当然です。そこに、正しい絵とまちがった絵はありません。１人ひとりのちがいがそのまま見えてくることが、アートのおもしろさだと話していました。

そして、アートには「わからない」をそのまま受け止める力があるとも言っていました。勉強では、わかることやできるようになることを目指します。でも、人生で出会うことの多くは、実はわからないことだらけです。わからないことを、無理にわかろうとしなくてもいい。わからないまま、しばらく自分の中に置いておく時間があってもいい。そんな話に、はっとしました。

講演の終わりに、日比野さんは高校時代の話もしてくれました。進路（高校の次の道）に迷っていたとき、「自分を表現することが生きることだ」という言葉に出会って、では自分は何で自分を表現できるだろう、と考えたそうです。その答えが、絵を描くことでした。それが今の自分につながっていると話していました。

本校には、音楽やスポーツ、勉強など、いろいろな形で自分を表現している人がたくさんいます。でも、見えているのは、ほんの一部です。発表や試合や舞台の数分間の後ろには、毎日の積み重ねがあります。先生たちは、それを見ています。何で自分を表現できるのか、まだわからない人もいるかもしれません。わからないままでも、いろいろなことをやってみているうちに、少しずつ見えてくるものがあるはずです。１学期の始業式に、自分で自分を評価しよう、という話をしました。現時点での自分は何点ですか。何点でもかまいません。

校訓に「己を見つめ」とあります。わからないことがあっても、積み重ねてきた自分は、きっと確かです。



３年生調理実習のポン・デ・〇〇風、美味でした。